目次

第１章　序論

1-1. 学習者の視点からの「は」と「が」の難しさ ---------- 1
1-2. 本研究の目的及び方法 ---------- 2
1-2-1. 本研究の目的 ---------- 2
1-2-2. 本研究の方法 ---------- 3
1-3. 本論文の構成 ---------- 4

第２章　第２言語習得研究、及び先行研究における本研究の位置づけ

2-0. はじめに ---------- 7
2-1. 第２言語習得研究の潮流 ---------- 7
2-1-1. 対照分析研究 ---------- 7
2-1-2. 誤用分析研究 ---------- 8
2-1-3. 中間言語研究 ---------- 10
2-1-4. 習得順序研究と発達順序研究 ---------- 12
2-2. 第２言語習得研究における本研究の位置づけ ---------- 13
2-3. 「は」と「が」の中間言語研究に関する先行研究 ---------- 14
2-3-1. 各先行研究の要旨 ---------- 14
2-3-1-1. Russell (1985) ---------- 14
2-3-1-2. 坂本 (1986) ---------- 15
2-3-1-3. 小森・坂野 (1988) ---------- 15
2-3-1-4. 土井・吉岡 (1990) ---------- 15
2-3-1-5. 石田 (1991) ---------- 16
2-3-1-6. 長友 (1991) ---------- 16
2-3-1-7. Yagi (1992) ---------- 17
2-3-1-8. 花田 (1993) ---------- 17
2-3-1-9. Sakamoto (1993a、1993b) ---------- 18
2-3-1-10. 長友、他 (1993) ---------- 18
2-3-1-11. 横林 (1994) ---------- 19
2-3-1-12. 井内 (1995) ---------- 19
2-3-1-13. 八木 (1996) ---------- 19
2-3-1-14. 坂本 (1996) ---------- 20
2-3-1-15. 富田 (1997) ---------- 20
2-3-1-16. 八木 (2000) ---------- 20

2-3-2. 先行研究の概観と問題点 ---- 21
2-3-2-1. 発話に関する誤用 ---- 21
2-3-2-2. 学習者の母語と「は」と「が」の習得順序 ---- 21
2-3-2-3. 「は」と「が」の習得順序の概観 ---- 22
2-3-2-4. 言語習得理論に基づく研究 ---- 23
2-3-2-5. 日本語レベルによる習得順序の変化と「は」と「が」の分類 ---- 24
2-3-2-6. 「は」と「が」の指導 ---- 24
2-4. まとめ ---- 25

第３章　発話を対象とした「は」と「が」の縦断的研究

3-0. はじめに ---- 28
3-1. 研究の目的 ---- 28
3-2. 研究の方法 ---- 29
3-2-1. 調査の対象 ---- 29
3-2-2. 調査の日時と学習時間数 ---- 29
3-2-3. レベルの設定 ---- 30
3-2-4. 調査に使用した絵 ---- 30
3-2-5. 調査の際事前に提示した言葉 ---- 30
3-2-6. 分析の対象となる資料 ---- 31
3-3. 結果と考察 ---- 31
3-3-1. 表現量の定義と「は」と「が」の使用 ---- 31
3-3-1-1. 表現量の測定とその推移 ---- 31
3-3-1-2. 表現量と「は」と「が」の関係 ---- 32
3-3-2. 「は」と「が」の誤用とその傾向 ---- 34
3-3-2-1. 「は」と「が」の正用と誤用の推移 ---- 34
3-3-2-2. 欠落の誤用と選択の誤用 ---- 35
3-3-2-3. 選択の誤用の内訳 ---- 37
3-3-2-4. 留学生別結果 ---- 38
3-4. まとめ ---- 40

第４章　学習環境並びに第１言語の影響、及び「は」と「が」の習得順序

4-0. はじめに ---- 43
4-1. 「は」と「が」の習得における環境及び第１言語の影響 ---- 44
4-1-1. 先行研究 ---- 44
4-1-2. 研究の目的 ---- 45
4-1-3. 調査対象及び人数とそのレベル ---- 45

4-1-4. 調査の方法 …… 46
4-1-4-1. クローズテストに関して …… 46
4-1-4-2. 回答数と有効回答率 …… 46
4-1-5. 調査の結果と考察 …… 47
4-1-5-1. 正答数と正答率の比較 …… 47
4-1-5-2. 日本人、JFL、JSL、韓国人相互の正答率の差 …… 48
4-1-5-3. 日本人、JFL、JSL、韓国人の相関 …… 49
4-2. ＳＶＭ仮説の検証 …… 51
4-2-1. ＳＶＭとは …… 51
4-2-2. 先行研究とその問題点 …… 52
4-2-3. 研究の目的 …… 53
4-2-4. 調査対象及び人数とそのレベル …… 53
4-2-5. ＳＶＭの検証方法 …… 53
4-2-6. 調査の結果と考察 …… 53
4-2-6-1. 日本語母語話者の「は」と「が」の運用における系統的可変性の確認 …… 53
4-2-6-2. ＳＶＭ仮説の立証 …… 54
4-2-6-3. 「は」と「が」の習得の概観 …… 55
4-3. ＳＶＭ理論に基づいた「は」と「が」の習得順序 …… 56
4-3-1. 先行研究 …… 56
4-3-2. 研究の目的 …… 56
4-3-3. 調査対象及び人数とそのレベル …… 57
4-3-4. 分析の方法 …… 57
4-3-5. ＳＶＭ値の利用の意義 …… 57
4-3-6. 調査の結果と考察 …… 59
4-3-6-1. JFL の習得順序 …… 59
4-3-6-2. JSL の習得順序 …… 61
4-3-6-3. 台湾人（中国語を第１言語とする）学習者の習得順序 …… 62
4-3-6-4. 台湾人と韓国人の習得順序の差異 …… 63
4-4. まとめ …… 65

第５章　キュー強度の変移と「は」と「が」の予測

5-0. はじめに …… 69
5-1. 競合モデル (The Competition Model) …… 69
5-2. 先行研究 …… 70
5-3. 研究の目的 …… 71

5-4. 調査対象及び人数とそのレベル …… 71
5-5. 調査の方法 …… 72
5-5-1. キューの選定 …… 72
5-5-2. アンケート調査に関して …… 73
5-5-3. アンケートの作成と調査の手順 …… 73
5-5-4. アンケートの際の留意点 …… 73
5-5-5. 有効回答数 …… 74
5-6. 結果と考察 …… 74
5-6-1. 正答率の日本語能力による差とキューによる差 …… 74
5-6-2. キュー強度の順序 …… 75
5-6-3. キュー強度の変移 …… 76
5-6-3-1. キューの認知と「は」と「が」の選択 …… 77
5-6-3-2.「が」を導くキューの強度の変化 …… 77
5-6-3-3. 各キュー強度の変移の存在 …… 79
5-6-3-4. キュー強度の変移量の比較 …… 80
5-6-3-5. キュー強度の変移の理由 …… 82
5-6-3-6.「は」と「が」、キューの強度の変移量の比較 …… 83
5-6-4. 「は」と「が」の習得順序研究の問題点の再考 …… 84
5-6-5. 学習者が選ぶキューの予測 …… 86
5-6-5-1. 競合分析表の作成 …… 87
5-6-5-2. 競合分析表の有効性と予測の妥当性の証明 …… 88
5-7. まとめ …… 91

第６章　本研究に基づく「は」と「が」の指導とその効果

6-0. はじめに …… 94
6-1. 第２言語習得研究から見た「は」と「が」の習得の難しさ …… 94
6-2. 先行研究 …… 95
6-3. 研究の目的 …… 96
6-4. 調査対象及び人数とそのレベル …… 96
6-5. 調査の方法 …… 97
6-5-1. アンケート調査の問題 …… 97
6-5-2. 実験群と統制群 …… 98
6-5-3. 明示的指導の方法 …… 98
6-5-4. ＳＶＭ値の利用 …… 100
6-5-5. 仮説 …… 101
6-6. 結果と考察 …… 102

6-6-1. 実験の結果 …… 102
6-6-2. 指導の効果と指導すべき段階 …… 102
6-6-3. 投射モデルと「は」と「が」の指導 …… 103
6-6-4. 明示的指導の必要性 …… 104
6-7. まとめ …… 105

第７章　結論
7-0. はじめに …… 108
7-1. 総合的考察 …… 108
7-1-1. 発話の中の「は」と「が」とその習得過程 …… 108
7-1-2. 「は」と「が」とその習得過程における
学習環境並びに第１言語の影響 …… 109
7-1-3. 「は」と「が」におけるＳＶＭ仮説の立証 …… 110
7-1-4. 「は」と「が」の習得順序の検証 …… 111
7-1-5. 「は」と「が」のキュー強度の変移 …… 112
7-1-6. 学習者が選ぶ「は」と「が」の予測 …… 113
7-1-7. 「は」と「が」の指導とその効果 …… 113
7-2. 本研究の「は」と「が」の習得研究及び第２言語習得研究における意義 114
7-2-1. 第３章の意義（発話を対象とした「は」と「が」の縦断的習得研究） 115
7-2-2. 第４章の意義 …… 115
7-2-3. 第５章の意義 …… 117
7-2-4. 第６章の意義 …… 118
7-3. 日本語教育現場への提言 …… 119
7-4. 今後の課題 …… 120

参考文献 …… 122

資料
資料１ …… 130
資料２ …… 139
資料３ …… 174
資料４ …… 180
資料５ …… 181